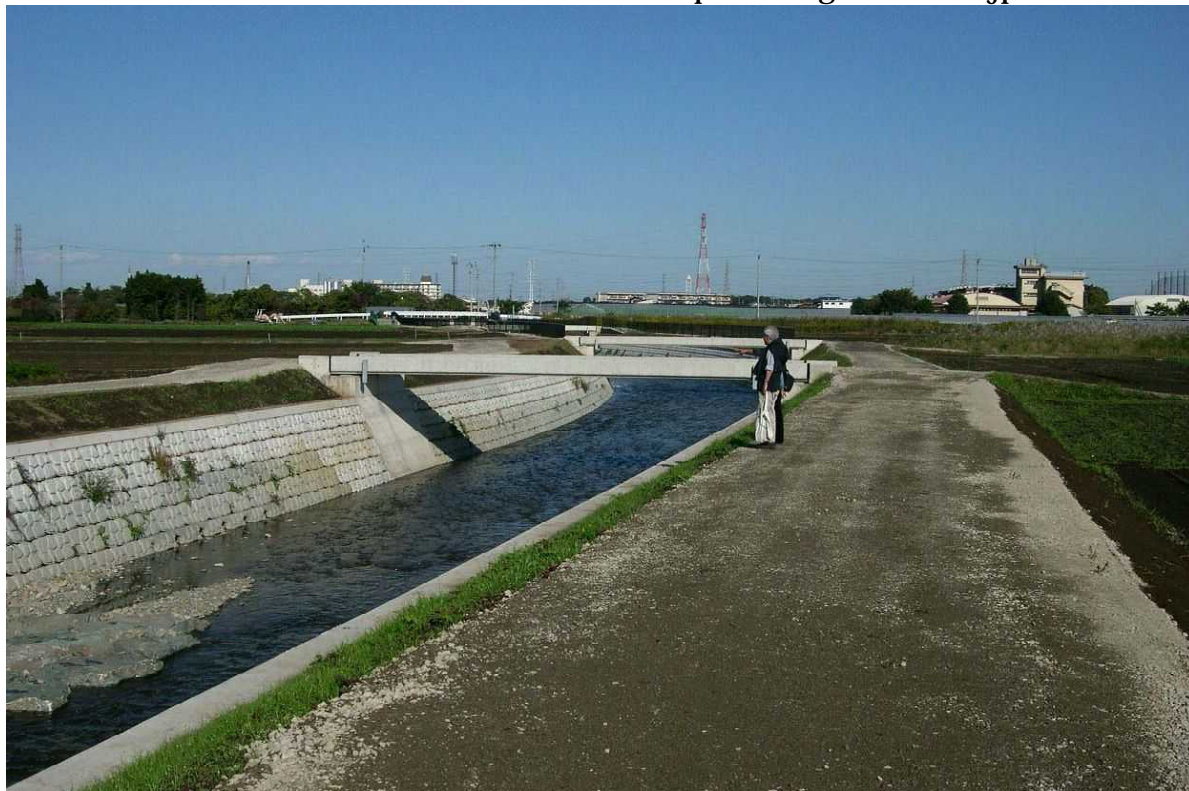


2008. 1. 1 発行 不老川流域川づくり市民の会 代表 相馬和彦  
 連絡先 TEL04-2965-1741 <http://furougawa.mods.jp/>



多自然の完成？ 川越今福区間 07.11.12

### 河畔林を育てよう

庭の片隅に椎茸の原木がある。椎茸が成長する姿は興味深いし楽しみでもある。今は、椎茸の子どもたちが雨を待っている状態。この木は、私たちが不老川の調節池「大森の池」のほとりに作った林の間伐材に椎茸の菌を植え付けたものである。

素堀の調節池には水があるというだけで様々な生き物が棲みつくようになった。その生息地を広げるためにも木を植えて近隣の林と繋げることにした。ともすれば川のほとりにには桜を植えたがるが、私たちは従来の種類にこだわり、近くの林の持ち主から幼木の提供を受け、また、ドングリから育てた苗を持ち寄って植え付けた。それが10年近く立って鬱蒼と茂り、間伐するほどになった。

生活の変化と共に人は川や林から離れていき、不老川も水害を起こす厄介者としてコンクリートで囲ってしまった。河川改修は“多自然川づくり”を旨とするといわれる現在も考え方は同じで、下流はただ寒々とした大きな水路になってしまった。

以前のようにからし菜つみを楽しむ日は来るだろうか。せめて大森の池は素堀のままで、年に一度でも子どもたちが走りまわる身近な自然体験の場に、大人には新たな自然とのつき合いを見つかる場にしたいと思う。  
 (村手)



ミクリ(実栗)

栗の形の実を付ける水性植物。準絶滅危惧種であるが、大森の池で確認され、最近少しずつ殖えている。水鳥の営巣の場にもなっている。

# 新河岸川上流水循環センター見学

昨年の夏ごろから、入曽で放流される還流水の水質が改善しています。この水は新河岸川合流点付近にある新河岸川上流水循環センター(旧称:川越市滝ノ下終末処理場)から送られてくる下水処理水です。

11月12日、水質改善の経緯を知るために、新河岸川上流水循環センターへ見学に行きました。その場で教えていただいた事についてのまとめです。

新河岸川上流水循環センター(滝ノ下終末処理場)は、昭和 39 年から川越旧市街地を対象に稼動している、県内で2番目に古い下水処理場です。現在は、1日に最大 58,000t あまりの下水を処理しています。

平成 10 年には“不老川清流ルネッサンス 21”による下水処理水還流事業が始まり、水質改善をはかるために、不老川の水量を処理水で補充することになりました。それまで処理場の横に放流されていた処理水の大半は、現在も地下の送水管を通じて約 13km 上流(高低差約 60m)にポンプアップされ、入曽の地点で放流されているのです。(右図)。

ところが、当初は放流水の水質に課題がありました。砂ろ過・オゾン処理の工程を加えても、“不老川清流ルネッサンス”で掲げる目標達成のために定められた放流水の水質をクリアすることができなかったのです。

有機物は下水処理過程で比較的良好に分解されているものの、残留するアンモニア性窒素などが酸素と結合すること(硝化作用)で、BOD値が高くなっていると考えられました。



不老川放流水質

年月	BOD mg/l	アンモニア性窒素 mg/l	亜硝酸性窒素 mg/l	硝酸性窒素 mg/l	全窒素 mg/l	
平成18年度	4月	19.0	14.0	0.5	4.6	22.0
	5月	19.0	11.0	1.1	4.7	21.0
	6月	17.0	9.9	1.4	4.2	20.0
	7月	19.0	5.4	2.3	2.9	19.0
	8月	12.0	3.4	2.1	4.4	10.0
	9月*	3.6*	0.0	0.1	6.4*	6.5
	10月	0.9	0.0	0.0	5.5	5.5
	11月	1.6	0.0	0.0	6.0	6.3
	12月	2.0	0.0	0.0	7.7	9.0
	1月	0.7	0.0	0.0	7.9	13.0
	2月	1.1	0.0	0.4	6.8	9.0
	3月	1.3	0.0	0.3	7.7	12.0
平成19年度	4月	0.95	0.00	0.00	7.1	7.4
	5月	2.80	0.90	0.50	7.3	11.0
	6月	0.79	0.90	0.30	7.0	8.4
	7月	3.20	3.50	1.00	6.7	11.0
	8月	1.10	0.10	0.00	6.0	6.6
	9月	3.70	2.30	0.30	5.2	7.8
10月	5.30	3.20	0.50	9.5	13.0	

川越浄化プラント維持管理実績  
(滝ノ下支所 H18年11月1日作成) より抜粋

平成 18 年4月に管理が川越市から埼玉県に移され、それまで場内で処理されていた汚泥が新河岸川水循環センター(和光市)に移送されるようになると、当施設での汚泥処理の負担が軽減されました。下水処理に余力が生じ、手間のかかる硝化促進運転が開始されたのです。

硝化促進運転とは、硝酸菌を繁殖させてアンモニア性窒素を硝酸性窒素まで酸化させる処理技術です。すでに硝化反応が完了しているため、放流後には酸素消費が起これにくくなります。

その結果、放流水のBOD値は低く推移し始めました。表を見ると、確かに平成 18 年9月頃からアンモニア性窒素の濃度とBODの数値が激減しています。また、この処理場には脱窒のための高度処理設備がないにもかかわらず、従来の処理設備で技術を駆使することにより、処理水の窒素分除去の効果もあらわれました。データから全窒素の値が減少しているのが読み取れます。

(「不老川還流水の水質改善」は平成 19 年度のいきいき下水道・国土交通大臣賞を受賞)

このようにして放流水(還流水)の水質は改善されたのだそうです。今回の見学で、下水道公社の皆さんの日々の努力を知りました。今後、富栄養化の要因として削減が急がれている窒素は、硝化から脱窒の方向で、より高度な処理が要求されることでしょう。不老川の還流事業には多大な尽力と費用がつけやされていることを、あらためて痛感しました。

(田端)

# 荒川クリーンエイド2007 in 不老川

10月21日

今年の荒川クリーンエイドは、最上流の秩父市から東京湾まで、全67の会場で実施されました。ゴミ拾いを通して、上流から下流まで人と人の輪を広げ、共に川の環境を考えるイベントです。

狭山市入間公民館から新入曾橋までのゴミを拾い、種類別に分別してカウントしました。参加して4回目になり分別も手際よく行えるようになりました。

当日は他のイベントと重なり、例年より参加人数は少なめでしたが、初めて参加した子供は川辺の虫を観察、水質調査の透視度計やパックテストで色の変化に興味津々、目を輝かせていました。

ゴミ拾いの後は、恒例の芋ほりと当会自慢の水団入りとん汁を堪能。「水団がお気に入りです3杯もお代わりをした僕、また来年も会えるのを楽しみにしてるよ！」。(遠藤)

こんな虫見つけたよ！

トンボ、ショウリョウバッタモドキ、オンブバッタ、ツナグロ、ヤマトシジミ、セスジツユムシ、イナゴ

## 不老川で環境学習 入間市立藤沢東小学校5年生

10月29日

入間市立藤沢東小学校の環境学習に参加した。不老川の歴史や現状について説明をしてから、藤沢体育館裏の不老川に行った。そこで班ごとに水質、植物等に別れたが、私は生き物班を担当した。川岸に立って川を見てもきれいな水が流れているだけで、何も見えない。網を川に入れてみたが、ゴソゴソやっても「何もいないよ」と、何も捕れない。網を借りて岸辺の草の横に網を置き足でガサガサやってみせたらザリガニとエビが5～6匹入った。魚はドジョウだけだったが、今年はエビが多いようだ。早速子供達も真似をしてやりだした

11月28日

学校からは約2km先の大森調節池に弁当持参で出かけた。湧き水がある事に驚いていたが、早速水に入り、ズボンが濡れても平気で、子供達は元気である。

ザリガニを71匹捕まえたり、ガマの穂をソーセージ？といったり、枯れた草原を転げまわったり、小春日和の一日をすっかり楽しんだようである。



環境学習の時間は少なくなるようだが、生き物に触れた時の子供達の目の輝きを見ていると、身近にある本物の自然に触れることの大切さを思うと共に、もっと多くの子供たちにも大森調節池の自然を体験してほしいものです。

(相馬)



・断トツのプラスチックゴミ

ゴミは...食品ポリ袋 220、発泡スチロール 148、タバコの吸殻 148、レジ袋 91、硬いプラスチック 73

水質は...COD 8以上、アンモニニア態窒素 1、亜硝酸態窒素 0.5、硝酸態窒素 6、全窒素 7.5、透視度 98

## 不老川と私

私が狭山に住み始め 30 数年になりました。

隣の狭山市駅はまだ入間川とっていました。この名から「不老川」を知りました。江戸名所図絵、廻国雑記に載っていたからです。廻国雑記の道興準后はこの地を歩き狂言で有名な入間川で、トシコサズ川はこの川だとあり、

立ちよりてかげをうつさば  
入間川わが年波も  
逆さまにゆけ

と詠んでいる。

不老川と入間川を間違えていたようです。

現代の不老川は一時ワーストランクに入った事もあるが多くの市民が集まって守ってきました。

私たちは今土手の樹々を守り、水質調べなど川越・所沢・入間からも大勢の人たちが集まって自然の大切さを感じながら川歩きを続けています。杉山(康)

## ～身近な生態系が危ない～ 外来生物ってなに？

心地よく不老川を散策中、巨大化したミドリガメや「ブォーン、ブォーン」と大きな声のウシガエルにびっくりしたことがあります。

ミドリガメ(ミシシッピ アカミガメ)は、アメリカからペットとして、ウシガエルは大正7年に食用として輸入されました。また、アメリカザリガニは、ウシガエルの餌として昭和5年に持ち込まれた生き物です。土手で繁茂するアレチウリは、北アメリカ原産で昭和27年穀物に混じって渡来したといわれています。

他にも私たちの周囲には様々な外来生物が存在しています。こうした外来生物の定着は、その地域で保たれていた生態系のバランスを崩しかねせん。多様な在来生物が住む自然環境を守るという意識を高めるようにしましょう。



### 守ろう！ 外来生物被害予防3原則

外来生物問題を引き起こさないため、私たち一人一人のとるべき姿勢を表したスローガン

- 1、**入れない** 悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に入れない。
- 2、**捨てない** 飼っている外来生物を野外に捨てない。
- 3、**拡げない** 野外にすでにいる外来生物は他地域に拡げない。

出典 環境省・農林水産省 外来生物法

(G・N)

## 巣箱を作って山王塚に 鳥を呼ぼう！

親子で巣箱を作って、山王塚の林にかけましょう

日時:2月23日 13時から不老川について説明のあと  
と巣箱作り(狭山市立入間公民館)

3月1日 10時～12時不老川を歩いて山王塚  
で巣箱かけ

参加費:100円(材料代)

対象:親子同伴

共催:狭山市入間公民館

申し込み・問い合わせ:丸橋(04-2959-3831)

### 川づくりに参加しませんか

定例会:毎月第3土曜日 13:30～

年会費:1,000円 詳細は下記世話人まで

入間市:相馬 04-2965-1741

狭山市:丸橋 04-2959-3831

所沢市:小黒 04-2923-8946

川越市:高木 0492-49-9828



### 流域情報

◇ 川の見学会 1月26日

新河岸川流域川づくり連絡会では、野川(東京都国分寺市)を観察します。野川を歩いて、見て、これからの不老川の参考になるかもしれません。

環境講座と映画上映 1月27日

入間市藤沢公民館で午前は環境学習成果や活動の紹介などパネル展示、説明をします。午後は環境講座、映画「ほたるの墓」を上映します。藤沢東小学校と宮寺小学校の環境学習の成果を見るのが楽しみです。

◇川でつながる発表会 2月10日

朝霞市中央公民館において、川を使った環境学習の成果を小学校から大学生まで8校の子どもたちが発表します。藤沢東小学校も発表します。

### 編集後記

2008年の夢 “偽”のない社会。生態系豊かな環境。温暖化ストップ。世界から戦争が消える。国民一人一人が健康で平和な暮らし。ただそれだけの小さな夢です。(y,y)